

糖脂質代謝異常・脂肪性肝疾患 と機能性栄養成分

日本人成人の死因の1/3は脳・心血管病であり、脳卒中、冠動脈疾患のいずれにおいても生命を脅かす疾患であるとともに、急性期を乗り越えても、それぞれ麻痺、心不全などにより、少なからず日常生活が容易でない状況になる。脳・心血管病の主要なリスク因子のなかには代謝性疾患が多く含まれており、その代表格が脂質異常症や糖尿病である。このような糖・脂質代謝異常と関連深い肝疾患として脂肪肝があり、非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）さらには非アルコール性脂肪肝炎（NASH）は肝臓癌のリスクであるが、脳・心血管病のリスクとしても注目されている。例えば、このような脂肪肝の際に高頻度に確認される血清 γ -GTの高値と動脈硬化性疾患のリスクなども数多く報告されている。

今回の特集は、「糖脂質代謝異常・脂肪性肝疾患と機能性栄養成分」をテーマとして企画し、本領域におけるエキスパートの研究者の方々にご執筆いただいた。お茶の水女子大学の岸本良美先生、田口千恵先生には「糖脂質代謝・肝機能に対するポリフェノールの効果」について疫学研究および臨床研究の成績とポリフェノールの作用メカニズムを解説いただき、東邦大学医療センター佐倉病院の渡邊康弘先生と龍野一郎先生には、脂肪酸とりわけn-3系脂肪酸の脂質代謝・動脈硬化さらには脳・心血管障害についての臨床成績と抗炎症性メディエーターに関する最新知見を解説いただいた。大妻女子大学の青江誠一郎先生からは、身近で自然界に多く存在し、古くから食されている β -グルカン、とりわけ大麦の水溶性食物繊維 β -グルカンについて、血清コレステロール低下作用、血糖上昇抑制作用、内臓脂肪蓄積軽減作用とともに腸内細菌叢との関係についてもご紹介いただき、カゴメ株式会社の福家暢夫先生からは、注目されているブロッコリーがもたらす脂肪肝・糖代謝異常抑制効果についてスルフォラファンに注目して解説いただいた。

いずれの特集総説においても、明日からの診療、研究、教育など多岐にわたって役立つ情報が満載である。あらためて、機能性食品の医用分野の確かな歩みと将来への期待が実感される。